

電源立地地域温排水対策事業調査—抄録—

蛸 名 政 仁・小 泉 広 明

発 表 誌 名

平成5年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（東通地区）・平成6年3月青森県

抄 録

天然資源調査

1. 漁獲実態調査

- (1) 白糠地区においては小型定置網、刺網、一本釣、イカ釣、棒受網の5漁業種類が行われ、なかでも小型定置網のサケとイカ釣によるスルメイカが漁獲量、漁獲金額ともに大きな割合を占め、当該地区における重要魚種となっている。
- (2) サケ、スルメイカ、ヤリイカ、サクラマス、ブリ、カレイ類で昨年と比較すると、ヤリイカ、サクラマスが増加傾向にあった。またヒラメ、カレイ類を主とする活魚の取り扱いはいずれも減少傾向にあった。

2. 標本船調査

- (1) 刺網漁業は6～10月までの期間中、主にヒラメ、イシガレイを対象とし、水深5～40mの漁場で操業を行っていた。
- (2) 一本釣り漁業は6月～11月の期間中、主にメヌケを対象とし尻労から小田野沢の水深250m付近の漁場で操業を行っていた。
- (3) スルメイカ釣り漁業は、漁模様が悪く、昨年の55%の漁獲量であった。漁場は初漁期には北部の水深120m付近を中心に、次第に三沢沖合いまで南下し、水深も深くなる傾向を示した。12月に入るとヤリイカの漁獲もみられた。

3. 生態調査 対象種：アイナメ

アイナメの成長は満1才魚で体長18cm、2才魚で26cm、3才魚で31cm、4才魚で38cm、5才魚で44cmであった。

体長（BL）と体重（TW）の関係では、 $TW=0.011BL^{3.213}$ の関係式が得られた。

アイナメの月別生殖腺指数（（生殖腺重量／内蔵除去重量）×10³）の変化を調査した。生殖腺指数は、雌雄ともに10月以降、増加の傾向がみられており産卵期は、11月以降の冬期と考えられた。また、雄の方が雌に比べ早く成熟するものと思われた。

4. プランクトン、卵・稚仔調査

平成5年5月31日、8月3日、11月17日の3回調査を実施した。

(1) プランクトン

各調査回時毎のプランクトン湿重量は、それぞれ0.650～0.917g、0.654～0.996g、0.617～0.97g

の範囲内で、調査地点間及び調査回時間（季節間）によって大きな差がみられなかった。

(2) 卵 ・ 稚 仔

第1回調査では、卵5個体（ホタルイカ1、その他の卵2）、稚仔5個体（ウスメバル1、クロソイ1、ヤナギムシガレイ1、その他の稚仔2）が採集された。

第2回調査では、卵4個（その他の卵4）、稚仔1,360個体（カタクチイワシ1,354、マサバ3、その他の稚仔3）が採集された。

第3回調査では、卵1個（キュウリエソ1）、稚仔33個体（カタクチイワシ8、ヨロイメバル14、メバル属4、ムラソイ1、アイナメ5、その他の稚仔1）が採集された。